

2021年11月5日

ETI-CGCの立ち上げに際して

我々、日本企業有志(別添1:参加企業リスト)と東京大学グローバル・コモンズ・センターは、本日、日本のエネルギー・トランジションを検討するイニシアティブ、ETI-CGC (Energy Transition Initiative-Center for Global Commons)を立ち上げた。東京大学において、世界のグローバル・コモンズ(人類社会の共通基盤として協調して守るべき安定的な地球システム)を守っていくために設立されたグローバル・コモンズ・センター(CGC)がその事務局を務める。

我々は次の5つの原則に基づき、ETI-CGCを推進することとした。

1. グローバル・コモンズである地球環境の持続可能性を守る。このため、日本の温室効果ガスの排出を2050年までにネットゼロにする道筋(パスウェイ)を描く。
2. 世界や日本における知見及び科学的洞察を基に、カーボンニュートラルを達成し、幸せと豊かさを実現する、地域事情に沿ったパスウェイを模索する。
3. このパスウェイが、多様な地域事情を抱える国々にとっても役立つモデルとなり、世界全体のカーボンニュートラルに貢献することを目指す。
4. パスウェイを実現していく過程は、日本の産業構造、経済社会システムや行動様式を未来に向けて変えていく機会であるにとらえ、どのようにその機会を活かすかをも議論していく。
5. 関連する政策提言などを行い、日本における議論を広く興すため、リーダーシップを発揮する。

ETI-CGCを開始するに当たり、ETC(Energy Transitions Commission。エネルギー分野の企業リーダーの国際的連帯。議長、Lord Adair Turner)に、国際標準の一つと目されるETCのパスウェイを日本に投影するとどうなるか、分析を依頼した。その分析作業は進行中である。我々は、ETCの分析を素材の一つとして、別添2にとりまとめた今後検討すべき事項について、議論を行い、日本にとって最適のパスウェイを模索していく。

このプラットフォームが日本におけるエネルギー・トランジションの議論を広く喚起し、政府、民間企業、大学に加え、国民が一体となって、2050年カーボンニュートラル実現を果たすことを強く期待する。